

92年に姉妹提携 内モンゴルの中学校 北井上中生 初の訪問



庫倫旗第一中学校の訪問に向け、日程の確認などをする訪問団員ら—徳島市のとくしま国際戦略センター

中国内モンゴル自治区通遼市の庫倫旗第一中学校と姉妹校提携を結んでいる徳島市の北井上中学校の生徒2人を含む訪問団が、20日から5日間、現地を訪れて親睦を深める。北井上中生の訪問は初めてで、生徒たちは「現地の生徒と仲良くなつて、外国の文化を学びたい」と期待に胸を膨らませている。

20日出発 交流深める

一行は北井上中3年の佐野廣大君(16)と大寺淳朗君(14)や日中友好協会メンバーら計10人。20日に出発し、21日に庫倫旗第一中学を訪れる。徳島市出身の中国残留孤児・烏雲さん(74)が植林活動した「烏雲の森」も視察し、24日に帰国する。姉妹校提携は1992年、庫倫旗第一中学の名誉校長を務める烏雲さんの橋渡りで実現。99年に他団体と共同で現地に日本語教室を設立した徳島県労働者福祉協議会(労福協)が、2011年から庫倫旗第一中を徳島に招待するなどして両校の交流促進を図ってきた。

さらに相互交流を深めるため、労福協が北井上中側に生徒の派遣を呼び掛け、佐野君と大寺君の現地訪問が決まった。3日には徳島市のとくしま国際戦略センターで事前説明会があり、スケジュールを確認した。労福協常任理事で訪問団長の東條恭子さん(59)は「民間レベルで若者同士の交流が長く続くよう、に後押しできれば」と話した。(笠井理)